



TITLE:

本多利明ノ經濟說ニ關シ本庄學士  
ノ教ヲ乞フ

AUTHOR(S):

福田, 徳三

---

CITATION:

福田, 徳三. 本多利明ノ經濟說ニ關シ本庄學士ノ教ヲ乞フ. 經濟論叢  
1916, 3(1): 135-137

ISSUE DATE:

1916-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127040>

RIGHT:

京都市帝國大學法科學大

# 經濟論叢

大正五年七月一日發行

第一號

第三卷

## 論說

資本ノ概念

資本利子税設定ノ氣運

支那近代ノ戸口ニ就テ(一)

續正貨蓄積論

戸田博士ノ不換紙幣論ヲ讀ミテ

保險本質論(二)

## 雜錄

經濟雜話第四

聯合諸國輸出入禁制ノ我國ニ及ボス影響ニ就テ

對露輸出品代金ノ支拂決濟ニ就キテ

經濟戰爭ト我貿易上ノ利害

現前ノ大戰爭ニ就テノ感想

乳兒死亡率ト出生率トノ關係

らうれー『みる』學說ノ研究(二)

本多利明ノ經濟說士ノ關シ本庄學教ヲ乞フ

米國ニ於ケル移民教育機關

補習教育義務ノ可否

法學博士 河上 肇

法學博士 神戸 正雄

文學博士 内藤虎次郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 福田 德三

法學士 小島昌太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

法學士 河田 嗣郎

文學士 米田庄太郎

文學士 高田 保馬

商學士 大塚金之助

法學博士 福田 德三

法學士 山本美越乃

法學士 財部 靜治

(禁)

轉

(載)

本多利明ノ經濟說ニ關シ  
本庄學士ノ教ヲ乞フ

福田 德三

雜錄

本多利明ノ經濟說ニ關シ本庄學士ノ教ヲ乞フ

學士ノ本多利明研究ハ近來稀ニ見ル學說史上ノ產物ナリ。故ニ予輩ハ多大ノ興味ヲ以テ一讀シタリ然ルニ學士ハ結論ニ於テ彼ノ學說ガ和蘭書ニ影響セラルル大ナルモノアルコトヲ説キテ『ソノ洋學ノ影響タルヤソノ時代ノ關係ヨリ主トシテめるかんちりずむノ思想ニ支配セラレタル形跡存スルカ如シ』ト云ハレ又『以上イロハ三項ニ示セル所ニヨリ利明ノ思想ガ洋學ニ淵源セルコトヲ認ムベク政治、地理、天文、航海等ノ書籍ヨリソノ知見ヲ擴メ、コレニヨリテソノ意見ヲ立テタルコトノ少カラザルヲ知ル可キ也』ト云ハレ更ラニ又『斯クノ如ク余ハ當時ニ於ケル洋學ノ狀態ト利明ノ洋書研究ノ範圍ノ二方面ヨリシテ利明ノ思想カ洋學ノ影響ヲ受クルコト少カラザルヲ認メントスルモノナルガ更ニ當時ニ於ケル我國ノ政治的經濟的事情ガ國家本位の思想ヲ生スルニ最モ便宜ナル時機ニアリシコトヲ知ルニ及ンデ一層ソノ信念ヲ強クスルニ至レルモノ也』又『天明寛政文化文政ノ次ニ至リテ（略）利明ガめるかんちりずむノ思想ヲ傳フルニ至リ』

シコトモ當時我國ノ事情ニ刺戟セラレタル所頗ル多カリシナラント云ハレタリ予ハ學士ノ特殊的研究ニヨリテ予ガ十六七年ノ昔概括的ニ德川時代ヲめるかんちりずむ時代ト認メ其時代ノ學說ニめるかんちりずむ的思想ノ認ム可キヲ主張シタルコトノ的確ニ裏書セラルルガ如クナルヲ見テ甚ダ會心ヲ禁ジ得ザルモノナリ。此點ニ於テハ畏兄瀧本教授ヨリモ予ノ方ヨリ多ク學士ノ說ニ近キヲ覺ユ。然レドモ予ガ學士ニ特ニ教ヲ乞ヒタキコトハ時代ノ趨勢以外ニ利明ノ思想ガ蘭學ニ淵源シ殊ニ其めるかんちりずむ說ガ彼ニヨリテ支配セラレタリト云フ一事是也。學士曰『カクテ利明ノ經濟說ヲ概觀スルニ其所論多クめるがんちりずむノイフ所ニ類スト雖モ更ニソレ以上ノ卓說亦少カラズ(略)然ラハ斯ノ如キ思想ハ果シテ利明ノ獨立セル思想ニ基ケルモノナリヤ或ハ他ノ學說ニ淵源スル所ノモノナリヤ之ヲ判別スルコトハ頗ル困難ナレトモ利明ノ說ヲ以テ全然孤立的獨創的思想ナリトハ信ジ得サルノミナラス又支那學說ノ燒直シナリトモ認ムル

コトヲ得サル也(略)利明ノ云フ所ニ就テハ支那思想ノ外ニ尙洋學ノ影響ヲ受クルコト甚タナルモノアルヲ認メント欲スルモノ也』支那學說燒直シ云々ハ瀧本教授ノ說ニシテ元ヨリ極メテ概括的ニ云ハレタルモノニシテ其以外一步モ出デズトハ瀧本氏モ亦主張セラルルモノニ非ザルガ如シト雖モ其反對ニ政治上又々經濟上ノ西洋ノ(和蘭)めるかんちりずむ說ガ利明ヲ支配シタリトハ學士ノ舉證ニ付テ見レバ單ニ概括的ナルモノノ如クナリ。利明ガ地理天文航海ノ書ヲ讀ミタルコトハ學士ノ舉證ニヨリテ明ナル所ナルガ政治(經濟)ノ書殊ニめるかんちりずむ說ヲ述ベタル書ヲ見タリトハ學士ニヨリテ毫モ立證セラレアラズ。學士ノ示ス所ニヨレバ『西洋諸君政務書一冊』アリ又『せおがらひ』トイフ書中ニふらんす國ノ政事ノ記述アリト云フ。學士ハ此二書ヲ以テ利明めるかんちりずむ說ノ出典トセラルルモノナリヤ。殊ニ前書ハ如何ナル種類ノ書ナリヤ學士必ズ考證アラン。是レ予ガ教ヲ乞ヒタキ第一條ナリ。

學士ハイロハ三項ヲアゲテ後政治、地理云々ト云ヒテ政治書ヲ第一ニアゲラレタルガ右二書『せおがらひ』ハ單ニ政事向ノ記述ナルガ如シノ外何書アリテ政治書ガ第一ニ置カレ得可キコトナリシヤ之レ學士ニ教ヲ求メタキ第二條ナリ次ニ利明ハ幾干ノ和蘭政治書ヲ讀ミタリトテめるかんちりすむ説ガ其等書中ニ記シアルコトノ立證ナキ限リ單ニ政治書ヲ讀ミタリトノ廉ヲ以テ其書ガめるかんちりすむ的ノモノナリトノ斷案ハ出デ來ラズ。何ノ書ノ何レノ部分ニめるかんちりすむ説アリテ利明ガ之ニ支配セラレタリト推スルノ根據ヲ與フルカ。和蘭政治經濟書ニシテ纏リタルめるかんちりすむ的著述ト認メ得可キモノ何々アリシヤ。予ハ先年少シク和蘭學說ノコトヲ調べタリシガ其經濟學ノ文獻ノ內容のニ甚ダ貧弱ナルニ驚ケリ。日本ニマデ舶來セラルル程ノ書ハ誰人ノ何ト云フ著述ナリシヤ學士ガ該博精密ナル研究ハ必ズ此點ニモ及ビタルナラン。是レ予ガ教ヲ得タキ第三條ナリ。

頃日瀧本教授ト會見ノ榮ヲ得タルトキ予ハ以

上ノ點ニツキ教授ノ教ヲ求メタルニ教授曰ク『本庄學士ハ京都某學會ニ於ケル講演ニ於テハ明カニ利明ハ和蘭學者ノめるかんちりすむ説ニ影響セラレタリト明言セラレタリ必ズ憑據アル可シ但シ予ハ聞カザリキ』ト。學士ノ文ニ於テハ著シク *soften* シアリト雖モ而モ予ハ猶熟讀ノ後以上ノ疑ヲ釋クヲ得ズ。依テ此一文ヲ草シテ學士ノ高教ヲ求ムル次第ナリ。(五六七)

因ニ瀧本教授ノ談ニコレバ内田博士モ亦利明ノめるかんちりすむ説ハ我邦ニ渡來セル蘭人等ヨリ得ル所アリトノ說ヲ有セラルル由。其ハ如何ナル種類ノ人ニシテ如何様ナルめるかんちりすむ説ヲ唱ヘタリシヤ、博士ノ教ヲ得バ幸甚シ。